

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 2 月 23 日

所属	学長付	職名	教授	氏 名	吉竹弘行
研究課題	「”安全・安心のまちづくり”のための教育」及び「養蜂事業による地方空港活性化事業 (S-HART 事業: <u>S</u> ustainable <u>H</u> oney <u>A</u> irport & <u>R</u> esilient <u>T</u> own)」に関する研究				
研究キーワード	防災教育、地区防災計画、 地方空港、養蜂事業		当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	11. 住み続けられるまちづくりを	15. 陸の豊かさも守ろう	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	

1. 研究成果の概要

(1) 「”安全・安心のまちづくり”のための教育」に関する研究

本研究は、学長プロジェクト3「安全・安心な都市・地域づくり」のリーダー及び国府台コンソーシアム（国府台地区の9教育機関と国府台病院をメンバーとする市川市への協力を含む地域交流、防災に関して連携対応を目指す団体）防災分科会会長としてとして、メガハザード水害の発生に備えた学内防災体制強化及び地域防災体制強化に関する活動として実施。

① 学長プロジェクトリーダー業務に関する事項

- ・ 学長プロジェクトでは、「楽しい防災教育プログラム」として、①罹災後 72 時間生き残る技術を学ぶ「サバイバルキャンプ」、②防災避難ルートを知る「防災ロゲインニング」、③避難体力をつける「防災ノルディックウォーク」、④自分用の避難空間確保する「車(シャ)バイバル」といった4つのゲーム感覚のプログラムを実施・提供しているが、これらの進捗管理、公開講座・リーダー会議報告の企画・運営。

② 国府台コンソーシアムに関する事項

- ・ 分科会運営、幹事会・総会・フォーラムでの講演。その他「防災の日」の企画・運営、和洋女子大とのイベント共催、市川市イベント講演協力、ステップえどがわ避難訓練協力。
- ・ 国府台コンソーシアム「防災の日」を、市川市役所、あいおいニッセイ同和損保（AD）、NTT 東日本、三和商事、ステップ「えどがわ」他の協力を得て、9月15日に本学で実施。参加者は、コンソーシアム教職員・学生の外、市高齢者連合会、国府台小学校4年生90人を含めて、200人超が参加。

		1号館メインエントランス西側エリア				1号館メインエントランス東側エリア				メイン ストリート
会場		屋外 (西側)	1101	1102	共用部 (西側)	共用部 (中央)	共用部 (東側)	屋外 (東側)	1103	1104
担当		72時間サバイバル協会	あいおい	市川市/ 三和商事	小野/榎戸/和洋/ 学生	NTT東日本	市川市/ 三和商事	市川市/ 三和商事		ISG/吉竹・前田
9/15 (金)	10:00	サバイバル キャンプin いちかわ	Cmapの使い 方セミナー	小中学生向けプログラム 小中学生向けプログラム / 養蜂展示訓練 (展示) / 防災避難 (内用部) / 2グループで30分ずつロー テーション (1組一ヶ所30分単位)	学生発表 ブース (展示のみ)		避難所設営 ブース避難 所設営体験 自由に見学 可	小中学生向けプログラム 小中学生向けプログラム / 養蜂展示訓練 (展示) / 防災避難 (内用部) / 2グループで30分ずつロー テーション (1組一ヶ所30分単位)	講義/休憩 防災ノル ディック ウォーク	防災ノル ディック ウォーク
	10:30			大学生・教職員向け 小中学生向けプログラム / 養蜂展示訓練 (展示) / 防災避難 (内用部) / 2グループで30分ずつロー テーション (1組一ヶ所30分単位)	学生発表 (学生が来場 者へ説明)	防災 AR体験		大学生・教職員向け 小中学生向けプログラム / 養蜂展示訓練 (展示) / 防災避難 (内用部) / 2グループで30分ずつロー テーション (1組一ヶ所30分単位)		
	11:00		撤収/準備	休憩/撤収				休憩/撤収		
	11:30			休憩/撤収				休憩/撤収		
	12:00		SDGsと防災/ 男女共同参画 セミナー①講 演②討議 学 生/女性社員	学生発表 ブース (展示のみ)	休憩/撤収					
	12:30			休憩/撤収						
	13:00		休憩/撤収	休憩/撤収						
	13:30			休憩/撤収						
	14:00		休憩/撤収	休憩/撤収						
	14:30			休憩/撤収						
	15:00		休憩/撤収	休憩/撤収						
	15:30			休憩/撤収						
	16:00		休憩/撤収	休憩/撤収						
				休憩/撤収						

③ 学内委員会(キャンパス・グランド・デザイン委員会)に関する事項

- ・ 昨今の自然災害の頻発に対するリスク対策及び本学土地戦略に関して提言。具体的には松戸街道歩道の拡幅と道路の擁壁改修と合わせて、本学の将来構想（校舎集約高層化・空地拡大、和洋との連携）面でも大

きなメリットを得る可能性がある事を提案。

(2)「養蜂事業による地域空港活性化 (S-HART 事業)」に関する研究

本研究は、本学のあいおいニッセイ同和損害保険 (株) (以下、AD)グループとの SDGs 及び地域活性化に関する協定事業の第一号事業として行っている研究プロジェクト。

- ① 地域活性化の牽引役として整備された地方空港は、現状は、所在する県・自治体の財政に大きな重荷となっており、その活性化は地域として解決するべき必須課題となっている。一方、ポリネータ育成で地球温暖化ガス削減に貢献する都市養蜂事業は、地域コミュニティの形成手法として注目されつつあり、本研究はこの二つの要素を組み合わせることで、地域活性化を研究するプロジェクト。地元養蜂事業者と高校生との連携を基軸に、銀座ミツバチプロジェクト、ANA グループ、福島県・須賀川市・玉川村、地元商工会を巻き込むプロジェクトを作り上げた。この推進過程を体系的に整理していくことで、地元での人材育成や地域活性化に貢献することが期待され、また研究成果が全国的な顕在知となる事を期待している。
- ② 本学同窓会福島支部の協力を得て須賀川創英館高校(国家プロジェクト「福島イノベーションコースト構想事業」推進担当校)と地元企業等など連携したプロジェクトとして活動した結果、産学官協働プロジェクトとしてだけでなく、文科省が求める「ビジネス系大学と地方商業高校との高大教育連携」の典型例となっている。具体的には、開発協力商品の商標登録、須賀川市のふるさと納税返礼品への採用、福島民報社「ふくしま産業賞学生銀賞」受賞、プロジェクトに参加した高校生の本学入学という成果を得た。また活動内容を本学学生と共にシニア社会学会の社会保障研究会で発表、その後に論文として投稿した結果、2024 年度学会誌に査読付き論文としての掲載が決定しており、本学学生の教育といった点でも成果を得た。

2. 著書・論文・学会発表等

【論文 (査読あり)】

- ・ 福島 S-HART 事業関連 ; SDGs 社会における空港マネジメントー都市養蜂事業を活用した福島空港地域活性化への試行的研究 吉竹弘行・猪熊ひろか・小野塚彩・元島智樹・黒澤このみ・國分美里、エージレスフォーラム 22 号、掲載ページ調整中、2024 年 6 月(掲載決定)

【学会発表等】

- ・ 福島 S-HART 事業関連 ; SDGs 社会における空港マネジメントー都市養蜂事業を活用した福島空港地域活性化への試行的研究、シニア社会学会社会保障研究会、2023 年 12 月 13 日、オンライン

3. 主な経費

- ・ 福島 S-HART 事業関連 ;福島空港への学生出張同行、現地関係者との打合せ費用。意見交換のため OA 関連機器充実、販売協力のための学生ちらし作成費用等

4. その他の特筆すべき事項

- ・ 福島 S-HART 事業関連

- ① 本学・須賀川創英館高校・(株) ふるサポによる商標登録「LaBeeNIR」
- ② 須賀川創英館高校 ふくしま民報社「ふるさと産業賞」学生銀賞受賞
- ③ 開発商品バスクチーズケーキ「伝右衛門 LaBeeNIR」の須賀川市ふるさと納税返礼品採用

以上